

各分野での活発なやり取り

ゆめぷらっと小城市は

問 何の目的のためにつくられたのかわからない。

答 「ゆめぷらっと」は公民館の合築変更や、人件費、資材の高騰などで23億9,700万円になり、また、変更で現在の金額になっている。早い段階で変更の決定がなされているが、何ら議会に報告がなく不愉快な思いをした。工程会議には職員が出席していると聞くが、その内容を上司、課内での協議がなかったということは、今後の反省点であり、しっかりと対応して行くべきである。

問 元々の計画段階から約3倍に工事費が膨れ上がったと聞いた。当初計画の金額はいくらだったのか。また、なぜこんなことになったのか。

答 最初は交流センターということで、金額は8億円くらいだったと記憶している。計画段階で、別途に小城市公民館の老朽化により雨漏り等がしていたことから建て替えの話があった。交流センターを作って、また20億円使って小城市公民館を建てる

よりも交流センターに公民館機能を組み込むことにより、その当時の試算で16億円程度に抑えることができるとして、議会としてもこれを可決した。その後

に資機材や人件費の高騰があり約4億円の追加になったということで議会への提案があった。その時も議会で追及したが、最終的に調査した結果、値上がり分は妥当な額であると判断し、交流センターと公民館を別々に建てるよりも効率的という判断から可決した。それが済んだあとで工事費に約2,700万円の不足が生じていることを、上司に報告しないで工事が終わり、引き渡しがあった後に発覚した。通常では引き渡しが行われる前に議会に諮るべきことであつたが市長も全然知らなかったという話だった。議会の中で、市長は必ず調査をして議会に報告するとの説明であつたので、実際、工事費はかかっているし真相解明も約束したことか

ら議会としては追認という形で賛成多数で可決した。その時点で、再発防止のためのマニュアルを作成していることであつたので、作成したら議会にも提示

があるように申し出をした。



問 底の追加工事は設計ミス。なぜこの設計会社を選んだのか。

答 設計会社選定の経緯経過は、プロポーザル方式で幅広く色々な方の意見や提案を受けたということ。3業者の応募があり、小城市公民館の大会議室において、一般の方々にもオープンにして提案をされた。外部の選考委員も入れ、業者名を伏せた形で採点を行った結果、当該設計会社を選定された。

問 収容人員が500人となっているが駐車場が全然足りない。大きなイベント時と

かは大丈夫か。また、小城市が補助金を出している各サークル等がイベントするときはなるべく「ゆめぷらっと」を使うように通達が来ていると聞くが、そういう講演会等のイベントは4町を回すべき。

答 議会としてもゆめぷらっとと駐車場については何度となく質問しているが、執行部からの答弁は今の小城市公園の駐車場を利用していただきたいとの一点張り。イベントの時は周りの地区の駐車場にお願いをして停めさせていただくことにしている。講演会等のイベントの開催については、4町をうまく回してバランスのとれたイベントを開催することを執行部に強く要望していく。

西九州大学地域
看護学部誘致は

問 小城市にもつてくる理由は何か。どのようなメリットがあるのか。

答 メリットとしては、中心市街地の活性化、高齢者社会での看護の重要性などがある。小城市内で勉強した人ができる限り小城市内で小城市民のために役立ってもらおう。また、360名の学生と

議会報告会を開催

7月27・28日、市内4か所において4回目の議会報告会を開催し、63名の方々にご参加いただきました。会場において出された意見、質疑、アンケートから掲載しました。一部は、後日、執行部に確認を行い、加筆修正したのものもあります。

約40名の教員で経済効果は執行部の試算で年間約8億円あると聞く。また、若い人の交流でまちの活性化が図れるということも期待している。

問 西九州大学への小城市の持ち出しはこれで終わりののか。

答 大学としては19億8千万円の計画がある。6月議会では7億5,735万円を支援するということでの債務負担行為を可決している。あと別に大学誘致周辺環境整備

で事業費は1億4,236万円かかる。他にブルー用地の取得に7,815万円かかるので、大学関係全体で9億7,787万円が現時点での大学誘致に伴う財政負担となっている。

問 わざわざあんな狭いところではなく、他の場所でもよかつたのではないか。

答 執行部は、中心市街地を整備していく中において、文教地区ということで大学を入れていく

考え方であった。ご指摘の通り、議会でも、もう少し広い場所もあるのではという意見も多く出た。小城市の運動公園の跡地、牛津の庁舎跡地もあつた。色々議論はしたが、中心市街地の活性化を図っていくという執行部の考え方の中で現在地に

なつたとの説明を受けた。

防災・避難所は

問 防災無線が聞こえない。4月に区長から連絡してもらい8月にやつと対応してもらつたことになっている。牛津町の避難場所が一番低い公民館になっている。なぜ避難場所になつているのか防災対策課にいつても改善されてない。住民が何に困つているのか、積極的に対応してもらいたい。

答 防災無線が聞こえない件は委員会審議でも取り上げたがまだ充分ではないと思つている。避難場所については、堤防が決壊まではしないけれども避難しなければならぬ場合は公民館は有効だと思つた。避難場所等については防災会議のなかで詰つて検討することになるというところで若干時間がかかるということをご理解いただきたい。

道路・交通は

問 時間的に利用しづらい巡回バスの運行表を誰がどのようにして決めてるのか。

答 小城市公共交通協議会の中で巡回バスの運行について協議されている。地域性があることからバスではないがよりベターなコースづくりとなつている。乗車率等の問題はあるので議会の中で質疑があつたがこれといった解決策はなく、今後の課題ということで執行部とも協議していく。

問 牛津駅から新町、砥川大橋、砥川町を過ぎる34号線に合流する県道が、市道になつたら、橋の修理はどこがするのか。

答 砥川大橋を管理するとなると財政的負担が大きいのではないかと、水害の危険性があるとか、色々な意見があつたが、可決した。橋は市が管理することになる。

問 スマートインタチェンジに接続する道路

の拡幅に反対の住民がおられ、村の真ん中を通すのではなくて人里離れたバイパスにしてほしいという意見が、今頃になつて出てきている。生活環境を考えると、騒音、振動で安眠もできないのもう一度検討していただいたらありがたい。スマートインタチェンジのための買収も終わつてないのに見切り発車のよくな工事を待つていて疑問を持つている。

答 スマートインタチェンジの道路拡幅は県道なので県の事業で市の担当者がお手伝いをしていと思つていた。地域からも一部要望が出ていると聞いている。

問 アイル資源磨き構想は

答 構想の方向性については、どうなつているのか。

答 平成27年度中にワークショップ方式での市民会議やパブリックコメントにより、市民の意見を取り入れながら基本

構想を策定している。平成28年度は基本構想をもとに基本計画を策定することになつている。計画策定については、PFI、PPPなどによる官民連携手法が導入可能かどうかを調査するというところで、国土交通省の先導的官民連携支援事業の補助を受けながら基本計画を策定することになる。市民から出された意見は、できるもの、できないものがあると思定し、今後基本計画を策定していくなかで意見を共有し、材料としていくと執行部から説明を受けている。

問 小城市の運動公園跡地は

問 用地はどうなつて

答 土地開発基金でその土地を取得しているの、それを一旦一般財源で買戻しておかなければならないものをしてなかつたので、今、随時買戻しを行つているところ。現在半分ほど買戻している。

